

学術講演会プログラム

特別企画

特別講演 1

10月14日(木) 13:10～14:10 第1会場

SL1. 臨床応用を志向した医療 AI 研究：Precision Medicine 時代の医療ビッグデータ解析

司会：村上 信五（名古屋市立東部医療センター）

演者：浜本 隆二（国立がん研究センター研究所）



村上 信五



浜本 隆二

演者略歴

2000年 東京大学医科学研究所・リサーチアソシエイト
 2001年 東京大学医科学研究所・助手
 2006年 ケンブリッジ大学腫瘍学部・Honorary Visiting Fellow
 2007年 東京大学医科学研究所・助教
 2012年 シカゴ大学医学部・准教授
 2016年 国立がん研究センター研究所・分野長（現職）
 2016年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・連携大学院教授（現職）
 2016年 戦略的創造研究推進事業CREST研究代表
 2017年 理化学研究所革新知能統合研究センター・チームリーダー（現職）
 2018年 一般社団法人日本メディカルAI学会代表理事（現職）
 2018年 内閣府/官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）研究代表（現職）

所属学会（学会・学術雑誌役職等）

一般社団法人日本メディカルAI学会（代表理事），一般社団法人日本オミックス医学会（理事），一般社団法人日本癌学会（評議員），日本がん分子標的治療学会（評議員），アメリカ癌学会（Active Member）

受賞歴

2005年 持田記念医学薬学振興財団留学補助金受賞
 2007年 Canon Foundation Research Fellowship award
 2008年 Outstanding Professional Award for Dedicated Achievements in the Field of Medical Science (ABI)
 2009年 Scholar-in-Training Award for the AACR
 2016年 安田記念医学財団癌研究助成受賞
 2017年 ノバルティス科学振興財団研究奨励金受賞
 2018年 生命医薬情報学連合大会・優秀ポスター発表賞（共同受賞）
 2019年 日本メディカルAI学会奨励賞・優秀賞（共同受賞）
 2019年 日本胎児心臓病学会・里美賞（共同受賞）
 2019年 日本皮膚科学会総会・優秀一般演題賞（共同受賞）
 2019年 Wellness AWARD of the Year 2019
 2019年 ISUOG Congress 2019 Short oral presentation award（共同受賞）
 2020年 2019年度日本メディカルAI学会奨励賞-JMAI AWARD・優秀一般演題賞（共同受賞）
 2020年 2019年度日本メディカルAI学会奨励賞-JMAI AWARD・優秀ポスター賞（共同受賞）

特別講演 2

10月15日(金) 13:30～14:30 第1会場

SL2. 再生医療の現況と課題, その開発の舞台裏

司会：山嵜 達也 (東京大学)

演者：大和 雅之 (東京女子医科大学先端生命医科学研究所)



山嵜 達也



大和 雅之

演者略歴

1989年 東京大学教養学部基礎科学科 卒業
1991年 東京大学大学院理学系研究科博士前期課程修了
1994年 東京大学大学院理学系研究科博士後期課程修了
1994年 日本大学薬学部 助手
1997年 日本学術振興会 博士研究員
1998年 東京女子医科大学医用工学研究施設 助手
2001年 東京女子医科大学先端生命医科学研究所 講師
2003年 東京女子医科大学先端生命医科学研究所 助教授
2007年 東京女子医科大学先端生命医科学研究所 准教授
2008年 現職

受賞講演

10月15日(金) 14:40～15:40 第1会場

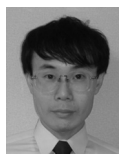
司会：欠畑 誠治 (山形大学)

羽藤 直人 (愛媛大学)

第4回日本耳科学会賞受賞者講演

人工内耳手術における画像を用いた術前プランニングおよび予後予測に関する研究

演者：榎尾 明憲 (東京大学)



榎尾 明憲

第 27 回日本耳科学会奨励賞受賞者講演（基礎部門）

メタボローム解析を用いたミトコンドリア機能異常による加齢性難聴の原因解明

演者：三輪 徹（公益財団法人田附興風会医学研究所・北野病院）



三輪 徹

第 27 回日本耳科学会奨励賞受賞者講演（臨床部門）

耳管開放症診断基準案 2016 による耳管開放症確実例の検討

演者：原 將太（日本大学）



原 將太

急性感音難聴を考えるー日常診療に役立つ最近の話題ー

司会：伊藤 健（帝京大学）
曾根三千彦（名古屋大学）

SY1-1. 小児の急性感音難聴ー診断と治療

守本 倫子（国立成育医療研究センター）

SY1-2. 急性感音難聴の診療において遭遇しうる MRI 所見について

川島 慶之（東京医科歯科大学）

SY1-3. 突発性難聴の MRI 評価ー最近の進歩ー

吉田 忠雄（名古屋大学）

SY1-4. 急性感音難聴の鑑別診断

池園 哲郎（埼玉医科大学）

SY1-5. 急性感音難聴における脂質メタボリズム代謝と有毛細胞の生死の決定

田淵 経司（筑波大学）



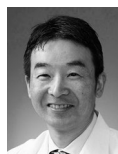
伊藤 健



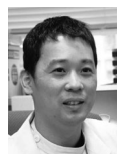
曾根三千彦



守本 倫子



川島 慶之



吉田 忠雄



池園 哲郎



田淵 経司

■企画意図■

急性感音難聴の原因は多岐にわたり、病態にはいまだ不明な点も多い。しかし近年、難聴遺伝子診断の進歩、造影 MRI 検査による画像診断など興味深い報告もあり、今後の病態解明が期待できる分野である。本シンポジウムでは急性感音難聴診療の現状と将来について様々な角度からの話題を提供する。

シンポジウム 2

10月14日(木) 8:40～9:40 第2会場

人工中耳と Baha[®], 軟骨伝導補聴器の適応と限界

司会：岩崎 聡 (国際医療福祉大学三田病院)
土井 勝美 (近畿大学)

SY2-1. 軟骨伝導補聴器, 埋め込み骨導補聴器, と人工中耳 (VSB)

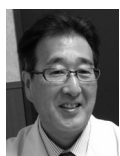
神崎 晶 (慶應義塾大学)

SY2-2. 人工中耳の最近の適応について

高橋 優宏 (国際医療福祉大学三田病院)

SY2-3. 軟骨伝導補聴器の適応と限界

西村 忠己 (奈良県立医科大学)



岩崎 聡



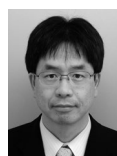
土井 勝美



神崎 晶



高橋 優宏



西村 忠己

■企画意図■

人工聴覚器手術が普及してきている中, その適応に関して未だ議論がある. 特に人工中耳と骨固定型補聴器においては適応が重複する部分も多いが, 術後成績などを比較した報告は多くない. 加えて軟骨伝導補聴器という新たな選択肢も加わっている. ここでは人工聴覚器手術だけでなく鼓室形成術や補聴器による聴力改善の経験も豊富な術者の立場から, それぞれが考える適応について治療成績を含め検討する.

耳科学におけるベンチャー企業の動向

司会：伊藤 壽一（滋賀県立総合病院研究所）
中川 尚志（九州大学）

基調講演

SY3-1. アカデミアベンチャーの事業開発と資金調達

河原三紀郎（東大 IPC（東京大学協創プラットフォーム開発株式会社））

演者略歴

東京大学工学部を修了後、凸版印刷で研究開発に従事、その後本社経営企画本部で事業部再編や外部との提携・M&Aなどを担当。ビジネススクールにMBA留学後、2007年に理化学研究所発ベンチャーの株式会社理研ジェネシスを設立し取締役COOに就任、約10年間にわたって遺伝子解析による個別化医療を推進。また、2014年より大阪大学発ベンチャーの株式会社BNAの代表取締役社長・CEOを兼任。2016年より東京大学の投資事業会社である東大IPCにて投資および事業開発を管掌。

SY3-2. 日本初の耳科関連ベンチャー企業「株式会社オトリンク（Otolink Inc.）」

小川 郁（慶應義塾大学，Otolink Inc. 代表取締役社長）

SY3-3. 再生医療等製品開発に向けた研究開発型ベンチャーの設立

森野常太郎（株式会社 ReeNT）



伊藤 壽一



中川 尚志



河原三紀郎



小川 郁



森野常太郎

■ 企画意図 ■

近年の医療界でベンチャーの活躍は華々しい。アカデミア発の技術開発に資金調達は不可欠である。国内においても大学発ベンチャーの起業が盛んに行われているが、それによりベンチャーキャピタルなどからの支援や、企業のみが申請可能な公的資金の獲得など、資金調達面ではメリットが多い。耳科学におけるベンチャー企業の紹介と今後の展望に関して紹介する。

シンポジウム 4

10月14日(木) 11:00～12:00 第2会場

耳科診療における遠隔医療・オンライン診療

司会：大島 猛史（日本大学）
 工 穰（信州大学）

SY4-1. 遠隔医療・オンライン診療の変遷と現況

川寄 良明（川寄耳鼻咽喉科）

SY4-2. 遠隔マッピングの現状と展望

高野 賢一（札幌医科大学）

SY4-3. ICTを活用しためまい診療の取り組み—遠隔医療・オンライン診療に向けての課題—

伏木 宏彰（目白大学耳科学研究所クリニック）

SY4-4. オンライン診療の価値と今後の展望

山下 巖（山下診療所）



大島 猛史



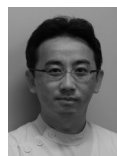
工 穰



川寄 良明



高野 賢一



伏木 宏彰



山下 巖

■企画意図■

コロナ禍の今、オンライン診療は注目されており、耳科診療においても新しいスタイルの医療が求められる時代となっている。実際に遠隔医療、オンライン診療に携わっているシンポジスト達がこの分野の医療、診療の現状と問題点、将来展望について議論する。

真珠腫の個別化医療は可能か？－病態に応じた術式を目指して－

司会：東野 哲也（宮崎大学）
山本 裕（東京慈恵会医科大学）

SY5-1. 真珠腫の個別化医療を目指した endoscope と exoscope を用いた手術治療の開発
伊藤 吏（山形大学）

SY5-2. 全国調査からみえてくる治療戦略
小森 学（聖マリアンナ医科大学）

SY5-3. 大阪医科薬科大学における中耳真珠腫手術成績と術式選択の変遷
萩森 伸一（大阪医科薬科大学）

SY5-4. 当科における後天性真珠腫の治療－術式の変遷と治療成績
森田 由香（新潟大学）



東野 哲也



山本 裕



伊藤 吏



小森 学



萩森 伸一



森田 由香

■企画意図■

真珠腫の治療は施設、術者による独自の工夫のもとに、多彩な手技を組み合わせた形（鼓室形成術）で行われている部分がある。病態に関しては真珠腫進展度分類 2015 および国際分類 (EAONO/JOS system 2017 Classification and Staging of Middle Ear Cholesteatoma) を基に論じられるようになり、同じ土俵での討論が可能となった。治療に関しては共通化が望ましいが、一方で今後はこれらを土台として病態に応じた個別化医療が進んでくると考えられる。このセッションでは、現在の問題点・課題を明確にし、今後 10 年での真珠腫治療の課題、取組みの足がかりとなるような議論を期待したい。

シンポジウム 6

10月14日(木) 16:00～17:00 第1会場

20年後を語ろうー耳科学に込められた「夢」と「希望」ー

司会：奥野 妙子（三井記念病院）

小島 博己（東京慈恵会医科大学）

SY6-1. 耳科学の20年後を語る

大石 直樹（慶應義塾大学）

SY6-2. 20年後の耳科学に期待すること 耳科医が手術を続けるための革新を期待する

樫尾 明憲（東京大学）

SY6-3. 20年後を語ろう～人工内耳なんかなくてもどうにかなる社会～

松本 希（九州大学）

SY6-4. 20年後の内耳発生・再生研究

山本 典生（京都大学）



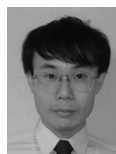
奥野 妙子



小島 博己



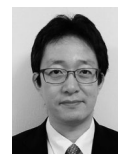
大石 直樹



樫尾 明憲



松本 希



山本 典生

■企画意図■

今後の耳科学が発展し社会へ貢献していくために、シンポジスト達に、様々な視点からアイデアを募り、20年後を想定していただき将来の耳科学の在り方を描いてもらう。

耳科学領域におけるリバース・トランスレーショナル・リサーチ

司会：宇佐美真一（信州大学）

原 渕 保明（旭川医科大学）

SY7-1. 突発性難聴に対する水素治療

岡田 昌浩（愛媛大学）

SY7-2. 臨床から基礎研究へ，その間をつなぐモデル動物プラットフォームの作成：再生医療と遺伝子治療の「臨床応用のその先」に必要な内耳基礎研究

細谷 誠（慶應義塾大学）

SY7-3. 中耳粘膜再生医療—培養鼻腔粘膜シートを用いた鼓室形成術—

森野常太郎（東京慈恵会医科大学）

SY7-4. 包括的な聴覚関連他覚的検査を用いた次世代の人工内耳医療の開発を目指して

山崎 博司（神戸市立医療センター中央市民病院）



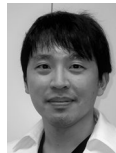
宇佐美真一



原 渕 保明



岡田 昌浩



細谷 誠



森野常太郎



山崎 博司

■企画意図■

基礎研究の成果が臨床応用される過程では，改めて基礎研究への橋渡しによる検証が必要となる（リバース・トランスレーショナル・リサーチ）。現在，この分野の第一線で活躍する研究者らがこれまでの知見を紹介する。

シンポジウム 8

10月16日(土) 9:10～10:10 第2会場

前庭機能解明への取り組み—基礎から臨床応用へ—

司会：北原 糺（奈良県立医科大学）
 鈴木 光也（東邦大学医療センター佐倉病院）

SY8-1. video Head Impulse Test

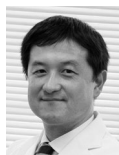
新藤 晋（埼玉医科大学）

SY8-2. VEMP による耳石器機能の評価

瀬尾 徹（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院）

SY8-3. 三次元眼位解析と耳石・重力認知機能の定量化へ向けて

堤 剛（東京医科歯科大学）



北原 糺



鈴木 光也



新藤 晋



瀬尾 徹



堤 剛

■企画意図■

前庭機能はいまだ完全には解明されておらず、めまい疾患の診断にも難渋することが多かった。しかし近年、前庭機能の基礎的な解明あるいはそれを根拠とした新しい検査法の開発が進んでいる。このシンポジウムでは、基礎的な観点、臨床的な観点の両面を結びつけながら議論する。

The impact of COVID-19: How COVID has changed the world

司会：飯野ゆき子（東京北医療センター）

Yukiko Iino (Tokyo-Kita Medical Center)

池園 哲郎（埼玉医科大学）

Tetsuo Ikezono (Saitama Medical University)

**PD1-1. Dealing with the Coronavirus disease-2019 pandemic in Japan:
An otolaryngology practice perspective**

栗原 渉（宮崎大学／東京慈恵会医科大学）

Sho Kurihara (University of Miyazaki / Jikei University School of Medicine)

演者略歴

2011: Resident, Dept. of Otolaryngology, Jikei Univ.
2014–2018: Graduate School Student, Div. of Regenerative Medicine, Jikei Univ.
2018: Assistant Professor, Dept of Otolaryngology, Jikei Univ.
2021: Assistant Professor, Dept of Otolaryngology, Miyazaki Univ.

**PD1-2. The Status of COVID-19 in Korea & Its Impact on ENT Practice/Resident
Training Program**

Shi Nae Park (The Catholic University of Korea)

演者略歴

1994	MD, College of Medicine, The Catholic University of Korea
1999–2013	Fellow~Associate Prof., Dept. Otolaryngology, The Catholic University of Korea
2014–	Professor, Dept. Otolaryngology, The Catholic University of Korea
2007–2008	UCSF Medical Center, ENT department & Hair cell physiology lab, Visiting Scholar
2020–Present	Board & Director of Training Committee, Korean Society of Otorhinolaryngology- HNS
2021–Present	Board & Director of Public Relations, Korean Otological Society
2021–Present	Advisor of Korean Tinnitus Study Group under Korean Otological Society
2018–Present	Treasurer, International Facial Nerve Symposium 2022
2019–2020	President of Korean Tinnitus Study Group under Korean Otological Society
2018–2019	Board & Director of International Affairs of Korean Society of Otorhinolaryngology- HNS
2016–2019	Council, Association of Research in Otolaryngology (ARO)
2016–2018	General Secretary of 6 th EASO Seoul Meeting
2012–2020	Board & General Secretary, Director of Scientific Committee, Director of Planning Committee, Director of International Affairs of Korean Otological Society

PD1-3. COVID-19: Lessons from SARS and Otolaryngology Services in Hong Kong SAR

Michael Chi Fai Tong (The Chinese University of Hong Kong)

演者略歴

1987, Medical graduate CUHK, 1991, Fellow, Royal College of Surgeons in Edinburgh, 1995, Founding Fellow, Hong Kong College of Otorhinolaryngologists, 1999, Research MD, CUHK; 2003 to 2008: Professor and Chief of Otorhinolaryngology, Department of Surgery, CUHK; 2008–2015: Professor and Head of Academic Divisions, Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery, CUHK; 2015 to present: Professor and Chairman, Department of ORL-HNS, CUHK

PD1-4. The impact of COVID-19 on otologic care in Canada

Adrian James (University of Toronto)

演者略歴

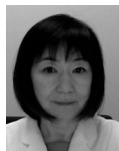
1984-87: Medical Sciences, University of Cambridge, UK
 1987-90: Clinical Medicine, University of Oxford, UK
 1990-2000: Surgical & otolaryngology training, Bristol and Oxford, UK
 2000-2003: Clinical & research fellow, Dept of Oto-HNS Hospital for Sick Children, Toronto, Canada
 2003-05: Senior Lecturer, University of Bristol, UK
 2005-present: Staff otolaryngologist, Hospital for Sick Children, Toronto, Canada
 2017-present: Professor, Department of Oto-HNS, University of Toronto, Canada

PD1-5. Evidence, experiences, and lessons from COVID in Brasilia-Brazil

Marcio Nakanishi (University of Brasilia)

演者略歴

1996: MD, Graduated as a physician at São Paulo State University (Unesp), Medical School, Botucatu
 1997: Medical Lieutenant of the Brazilian Army in the Amazon (Manaus)
 1998: Resident, Dept. of Otolaryngology, São Paulo State University (Unesp), Medical School, Botucatu
 2001-2002: Research Fellow, Rhinosinusitis - Endoscopic Sinus Surgery. Jikei University School of Medicine
 2003: Instructor Dept. of Otolaryngology, University of Brasilia
 2005: Doctoral Thesis, PhD at University of São Paulo (USP)
 2006-present: Associate Researcher Faculty of Medicine University of Brasília
 2006-2016: Coordinator of the Residency Program in Otorhinolaryngology University of Brasilia
 2017-2019: Associate editor in Rhinology and Skull Base Surgery of the Brazilian Journal of Otorhinolaryngology
 2017-Present: Chief of the Otorhinolaryngology Department, Hospital Santa Luzia - RDSL, Brasília
 2018-2019: President of the Brazilian Academy of Rhinology (2018-2019)
 2018-Present: General Coordinator Medical Residency Program at Univ. Brasilia
 2021-Present: Regional Coordinator Brasília of D'Or Institute for Research & Education (IDOR)

Yukiko
IinoTetsuo
IkezonoSho
KuriharaShi Nae
ParkMichael
Chi Fai
TongAdrian
JamesMarcio
Nakanishi

■ 企画意図 ■

現在も世界中で COVID-19 の感染拡大を認めている。各国における感染状況、対策、耳鼻咽喉科の外来患者数や手術数の推移、ワクチンの接種状況、今後の見通しなど COVID-19 パンデミックに伴う医療状況を耳鼻科医の視点から報告する。各国の経験から得られた知見を共有し、今後の新規感染症対策に活かすことができるようなディスカッションを期待したい。

絶滅危惧種の中耳研究—最新の基礎医学を語る—

司会：福田 智美（東京慈恵会医科大学）
松原 篤（弘前大学）

PD2-1. 中耳はこんなに面白い！—哺乳類中耳の発生と進化—
武智 正樹（東京医科歯科大学分子発生学分野）

PD2-2. インフルエンザ菌の Phosphorylcholine 発現による，中耳での細菌クリアランスと粘
膜免疫反応への影響
門脇 嘉宣，他（大分大学）

PD2-3. 後天性真珠腫発症メカニズムの解析～中耳陰圧の観点から～
穂山直太郎，他（東邦大学医療センター大橋病院）

PD2-4. 真珠腫性中耳炎における骨破壊機序の解明
佐藤 崇（大阪大学）



福田 智美



松原 篤



武智 正樹



門脇 嘉宣



穂山直太郎



佐藤 崇

■企画意図■

耳科の基礎医学において，中耳領域に対する基礎研究を行う若い研究者が減ってきているなか，このパネルディスカッションは中耳基礎研究を再度盛り上げようという狙いで企画した．様々な研究手法の紹介，そこから得られた治療に結び付く新知見を紹介し，今後の研究に役立てる話題を提供したい．

パネルディスカッション 3

10月15日(金) 9:10～10:30 第1会場

耳科手術，あなたはどっち！？—顕微鏡 vs 内視鏡—

司会：太田 有美（大阪大学）

欠畑 誠治（山形大学）

PD3-1. 顕微鏡下，外耳道後壁保存型鼓室形成術

我那覇 章（宮崎大学）

PD3-2. 耳科手術，内視鏡活用の立場から

窪田 俊憲（米沢市立病院）

PD3-3. 耳科手術あなたはどっち！？—顕微鏡 vs 内視鏡

須納瀬 弘（東京女子医科大学東医療センター）

PD3-4. 耳科手術，あなたはどっち！？—顕微鏡 vs 内視鏡—

羽藤 直人（愛媛大学）



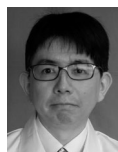
太田 有美



欠畑 誠治



我那覇 章



窪田 俊憲



須納瀬 弘



羽藤 直人

■企画意図■

経外耳道的内視鏡下耳科手術（TEES）が急速に普及しているが，顕微鏡下手術とTEESにはそれぞれ異なる適応や長所・短所があり，まだまだ議論の余地が多い．顕微鏡下手術，TEESの各々で経験豊富な術者の立場から，各パネリストが考える術式について治療成績を含めディスカッションを展開する．

内視鏡下耳科手術のウィークポイントはこれで克服—エキスパートはこうする!—

司会：小川 洋（福島県立医科大学会津医療センター）
角南貴司子（大阪市立大学）

PD4-1. 視野確保コツ，斜視鏡使用のポイント
高橋 昌寛（東京慈恵会医科大学）

PD4-2. Tympanomeatal flap 挙上，鼓索神経の同定など
松本 有（東京大学）

PD4-3. 前鼓室開放のポイント，骨削開のコツ
水足 邦雄（防衛医科大学校）

PD4-4. 内視鏡耳科手術上達のためのコツ—トレーニングから実践まで—
山内 大輔（東北大学）



小川 洋



角南貴司子



高橋 昌寛



松本 有



水足 邦雄



山内 大輔

■企画意図■

近年急速に普及している内視鏡下耳科手術のウィークポイントに対して，エキスパートが行っている対策と重視しているポイントについて具体的な手技を提示し討論する。

パネルディスカッション 5

10月16日(土) 10:20～11:20 第1会場

コロナ後の耳科診療はどう変わったか？

司会：伊藤 真人（自治医科大学とちぎ子ども医療センター）
 中条 恭子（聖路加国際病院）

PD5-1. 当院における新型コロナウイルス感染症蔓延後の変貌

上出 洋介（かみで耳鼻咽喉科クリニック）

PD5-2. 大学病院の立場から～エアロゾルの発生リスクとその対策～

新川智佳子（山形大学）

PD5-3. 当院における新型コロナウイルス感染の経験と対策

角田 篤信（順天堂大学医学部附属練馬病院）

PD5-4. 有床診療所における COVID-19 対策

湯浅 有（仙台・中耳サージセンター）



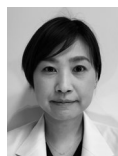
伊藤 真人



中条 恭子



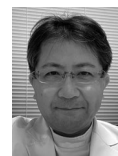
上出 洋介



新川智佳子



角田 篤信



湯浅 有

■企画意図■

コロナ禍の日本において、外来診療や手術など耳科診療はどう変わったか、勤務医、クリニックの医師の立場から議論し、また手術操作や診療によるエアロゾルの発生状況やその対策などについての知見についても討論する。

内耳細胞の発生・成熟機構の解明—次世代治療への応用—

司会：佐藤 宏昭（岩手医科大学）

Hiroaki Sato (Iwate Medical University)

山下 裕司（山口大学）

Hiroshi Yamashita (Yamaguchi University)

基調講演

TS-1. Hair cell regeneration-from mouse to human

Alan G. Cheng (Stanford University)

演者略歴

August 1991–May 1995	Johns Hopkins University, Baltimore, MD, B.S.
August 1995–June 1999	Albert Einstein College of Medicine, Bronx, NY, M.D.
June 1999–June 2000	Internship, Department of Surgery, University of Washington, Seattle, WA
July 2000–June 2002	NIH T32 Postdoctoral Research Fellowship, Department of Otolaryngology– Head and Neck Surgery, University of Washington, Seattle, WA. Advisor: Edwin W Rubel
July 2002–June 2006	Residency, Department of Otolaryngology–Head and Neck Surgery, University of Washington, Seattle, WA
July 2006–June 2007	Fellowship, Department of Otolaryngology and Communication Disorders, Children’s Hospital Boston, Boston, MA
September 2007–September 2014	Assistant Professor (University tenure line), Department of Otolaryngology- Head and Neck Surgery and Pediatrics, Stanford University School of Medicine
September 2014–May 2020	Associate Professor with tenure, Department of Otolaryngology- Head and Neck Surgery and Pediatrics, Stanford University School of Medicine
June 2020–present	Professor, Department of Otolaryngology- Head and Neck Surgery and Pediatrics, Stanford University School of Medicine
August 2017–present	Director, NIH/NIDCD T32 Clinician-scientist training program, Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Stanford University School of Medicine, Palo Alto, CA.
October 2019–present	Chief, Division of Pediatric Otolaryngology, Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Stanford University SOM.
June 2020–present	Edward C. and Amy H. Sewall Professor IV in Stanford University SOM

TS-2. マウス蝸牛組織マクロファージの局在と由来

岡野 高之（京都大学）

Takayuki Okano (Kyoto University)

TS-3. 蝸牛 greater epithelial ridge (GER：大上皮稜) を発生起源とする支持細胞再生

宇田川友克（東京慈恵会医科大学／スタンフォード大学）

Tomokatsu Udagawa (The Jikei University School of Medicine / Stanford University)

TS-4. 蝸牛非感覚上皮細胞の増殖能・分化能

久保田万理恵（九州大学／スタンフォード大学）

Marie Kubota (Kyushu University / Stanford University)

TS-5. 内耳上皮細胞を標的としたバイオ医薬品の開発

神谷 和作（順天堂大学）

Kazusaku Kamiya (Juntendo University)



Hiroaki
Sato



Hiroshi
Yamashita



Alan G.
Cheng



Takayuki
Okano



Tomokatsu
Udagawa



Kazusaku
Kamiya

■ 企画意図 ■

標準的な治療が確立されていない内耳障害の病態解明と，幹細胞／前駆細胞を用いた内耳再生への挑戦をテーマに，国内外のエキスパート達により最新の研究データ，知見を紹介する。

公募テーマセッション 1 その先の医療へ一次世代からの発信

10月15日(金) 16:10～17:10 第1会場

明日から使えるマウス内耳実験の Tips ～私はこうしている

モデレーター：吉村 豪兼（信州大学）

PT1-1. 胎生期マウス内耳をターゲットにした基礎研究

竹田 大樹（熊本大学）

PT1-2. 成体マウスを用いた内耳研究のための解剖・手技

吉村 豪兼（信州大学）

PT1-3. 難聴遺伝子治療研究の扉—そのマウス, 聞こえていますか? その遺伝子, 導入できますか?

大道亮太郎（岡山大学）

PT1-4. 内耳研究におけるシングルセル解析の実際

山本 亮介（京都大学）



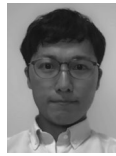
吉村 豪兼



竹田 大樹



大道亮太郎



山本 亮介

■企画意図■

近年内耳研究は iPS 細胞をはじめ *in vitro* での実験系も盛んであるが、哺乳類の中でも一世代時間が短く繁殖が容易、遺伝子改変が可能、さらに内耳形態においてヒトとの共通点が多い点などよりマウスを用いた内耳研究も重要であることは言うまでもない。しかしマウス内耳を対象とした実験手法は論文を読み込んでみても容易に再現できないことも多い。またマウス内耳は胎生期、幼若、成体と *drastic* に形態が変化していくが、それらをまとめた成書は皆無に等しい。臨床面では知識や手術手技をテキストや学会の教育セミナー等で整理できる機会も多いが、基礎研究においてはしばしば研究室内でのみ受け継がれることが多いと思われる。よって内耳研究に対する意欲があったとしても他施設では研究開始に二の足を踏むこともあり、裾野が広がらない一因と考えられる。

本セッションでは次世代の医療へつながるエビデンス創出を基礎研究から盛り上げていくため、実験ノウハウについて実際に手を動かしている若手研究者ならではの視点で議論してみたいと考えた。まずは胎生期～幼若マウスの取り扱いや解剖の基礎知識、およびマウス胎児はどのような研究が向いているのか、また具体的な実験手法につき、熊本大学の竹田大樹先生に発表いただく。次に吉村より成体マウスの解剖、ならびに薬剤やウイルスベクターなどの投与ルートや手法、免疫組織に用いるホルマウントやクロスセクション標本の作成方法に発表する。岡山大学の大道亮太郎先生より内耳研究には欠かせない聴覚評価、ならびに遺伝子導入のためにアデノ随伴ウイルスベクターについても触れていただく。最後に京都大学の山本亮介先生に近年の内耳研究のメインストリームの一つであるシングルセル解析に必要な細胞単離につき解説していただく予定である。これまで「秘伝のたれ」のように限られた施設でのみ受け継がれてきた知識や手技、および *tips* を共有することによりマウス内耳に対する理解が深まることが期待される。またセッションを通して若手研究者同士のネットワーク作りにも役立てれば幸いである。

公募テーマセッション 2 その先の医療へ一次世代からの発信

10月15日(金) 17:10～18:10 第1会場

「Hidden hearing loss」の病態解明・治療法開発に向けた内耳基礎研究

モデレーター：鈴木 淳（東北大学）

PT2-1. 蝸牛シナプス障害モデル動物を用いた研究に必要な実験手技

橋本 研（東北大学）

PT2-2. Cochlear synaptopathy をターゲットとした治療法開発への試み～*in vitro* 聴神経障害モデルを用いた検討～

小泉 優（山形大学）

PT2-3. 爆傷による内耳シナプス障害について

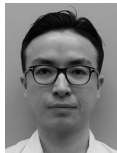
栗岡 隆臣（防衛医科大学校）

PT2-4. デルタ型受容体欠損による外有毛細胞 cochlear synaptopathy—新たな加齢性難聴モデル

藤川 太郎（東京医科歯科大学）



鈴木 淳



橋本 研



小泉 優



栗岡 隆臣



藤川 太郎

■企画意図■

マウスにおいて、軽度の音響暴露による一過性閾値上昇（TTS）の後、永続性のシナプス障害（cochlear synaptopathy）が生じると2009年に報告されて以降、多様な種で同様の病態が存在することが報告されている。内有毛細胞 - 蝸牛神経間のシナプスや蝸牛神経髄鞘の障害により惹起される「聴覚閾値は変化しないが閾値上の聴覚機能に異常をきたす」聴覚障害は、「hidden hearing loss : HHL」と命名され、加齢性難聴の促進因子、および正常聴力にも関わらず聞き取りの悪さや耳鳴を訴える患者の病態生理ではないかと注目されている。HHLの病態解明・治療法開発に向けた研究が全世界的に広がっている一方、本邦においてHHLに関する内耳基礎研究を行っている施設は必ずしも多くはないと感じている。

本セッションでは、HHLに関する研究を行ってきた若手研究者が、「新規参入を検討している方に役立つ情報」を織り交ぜながら自己の研究の軌跡と今後の展望を紹介する。本企画によって、聴衆の皆さんにHHLに関する理解を深めて頂くとともに、若手内耳研究者がこの領域に参入する契機になれば幸いである。

セッションの冒頭において、モデレーターの鈴木淳から cochlear synaptopathy および HHL の概要を説明させて頂く。東北大学の橋本研先生には、蝸牛シナプス障害モデル動物を用いた *in vivo* 実験に必要な手技について、山形大学の小泉優先生には、*in vitro* 実験系と Rho キナーゼ阻害薬の蝸牛神経障害に対する再生効果について、防衛医科大学校の栗岡隆臣先生には、爆傷による内耳シナプス障害について、東京医科歯科大学の藤川太郎先生には、外有毛細胞のシナプス障害について発表頂く。このセッションを聴講すれば、HHL に対する内耳基礎研究の概要を把握できるような内容にしたいと考えている。

HHL には確立された診断法・治療法が存在せず、まさに次世代に託された研究領域である。最先端の内耳基礎研究に関わる醍醐味を皆さんにも感じて頂きたい。

公募テーマセッション 3 その先の医療へ一次世代からの発信ー

10月15日(金) 16:10～17:10 第2会場

これからの学会・現場と行政とのコラボレーション～若手行政経験者の視点から～

モデレーター：藤原 崇志（経済産業省 医療・福祉機器産業室）

PT3-1. 経済産業省における医療関連行政と医師の役割

藤原 崇志（経済産業省 医療・福祉機器産業室）

PT3-2. PMDA を経て考える，アカデミアにおける行政経験者の役割とは

黒川 友哉（千葉大学医学部附属病院 臨床試験部）

PT3-3. 厚生労働省における行政官としての医師の役割～三位一体改革を例に～

堀岡 伸彦（厚生労働省医政局経済課）



藤原 崇志



黒川 友哉



堀岡 伸彦

■企画意図■

耳科領域疾患をもつ人に対する適切な医療を提供し、またそのための医薬品・医療機器の開発を進めていく上で、行政機関と折衝し進めていくことが重要である。日本においては主に厚生労働省において医師免許を有した医系技官が約 300 人弱所属し、専門知識をもって保健医療に関わる制度作りに関わっている。また医系技官のうち約 80 人は人事交流で臨床現場と厚生労働省を行き来しており、様々な診療科から行政の場に医師が参加している。厚生労働省をはじめとした行政機関に出向する医療者は多いが、一方で耳鼻咽喉科医として行政に出向した医師は限られている。

新生児難聴スクリーニング、ヘッドフォン難聴、認知症リスクとしての中年期難聴、高齢者難聴へのデバイス介入等、全世代に関わる様々な課題がある中で、いかに耳鼻咽喉科医師が専門知識をもって関わるかは重要な課題である。

本セッションでは耳鼻咽喉科医師でありながら行政（経済産業省、医薬品医療機器総合機構）に出向した医師から、行政においてどのような仕事を行ったのか、また耳鼻咽喉科医が行政に行くことの意味について、特に耳科領域に焦点をあてて学会員にむけて紹介する。また耳鼻咽喉科医として行政に出向した医師が少ないことから、厚生労働省医系技官として勤務する医師から医系技官の役割について紹介し、それらを踏まえて学会・現場と行政とのコラボレーションの在り方についてディスカッションを行う。

公募テーマセッション 4 その先の医療へ一次世代からの発信ー

10月15日(金) 17:10～18:10 第2会場

耳科手術の最善手を求めて

モデレーター：高田 雄介（順天堂大学医学部附属順天堂医院）

PT4-1. 耳科手術の最善手を求めて

本蔵 陽平（気仙沼市立病院）

PT4-2. 耳科手術の習得に向けて

木村 優介（日本大学医学部附属板橋病院）

PT4-3. 側頭骨外科のエキスパートを目指してー神経耳科・頭蓋底外科の総合力と魅力ー

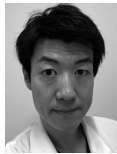
茂木 雅臣（東京慈恵会医科大学）

PT4-4. 外科医の醍醐味

高田 雄介（順天堂大学医学部附属順天堂医院）



高田 雄介



本蔵 陽平



木村 優介



茂木 雅臣

■企画意図■

将棋では、投了のあとに感想戦が行われます。勝者も敗者も関係なく、相手とともに一局の最善手を模索する共同作業であり、ともに棋道を究めようとする日本文化の誇らしい美学といえます。

耳科手術には定型的な手術もありますが、患者背景や病態などは個々の症例で様々であり、棋譜の如く一症例毎に手術内容が多種多彩です。耳科手術の難儀であった症例を提示頂き、本当に最善手であったのか、他に良い一手はなかったのかを検証し、各症例の最善手を模索するのが目的です。

演者の先生方には、難儀であった耳科手術症例を提示頂き、「耳科手術の感想戦」を行って頂きます。上手に短く編集した動画ではなく、あえて難儀であった場面も含めて手術所見をご提示頂きます。非の打ちどころがない編集動画ではなく、非の打ちどころがあるかもしれない編集動画を用いて手術所見の細部まで着目します。

また、比較的若い先生による登壇のため、初期臨床医や専攻医の耳目を集めると期待していますので、各先生方に下記内容を踏まえてお話し頂きます。演者間での討論を考えていますが、一方で会場の経験豊富な先生方や、あるいは専門医前の先生からの活発な質疑がなされればとも期待しております。

【演題内容】

- ①なぜ耳科に興味をもったのか？
- ②耳科手術の研鑽のために何をしてきたか？（国内留学や、解剖実習参加など）
- ③私の経験した難儀な耳科手術

非を論じ合うことが目的でなく、お互いに高めあうことを目的とすることにより、若い耳鼻咽喉科医へ耳科手術の奥深さや魅力が少しでも伝えられることができると期待しております。また、耳科手術においては新規材料、新規デバイスが常に優位であるとは必ずしも言えず、従来の手術のほうが優れている点多々あるかと考えます。耳科の先達者の積み重ねた経験から得られた「一手」を指南頂き、後進への御指導も賜りたいと存じます。

忌憚のない意見の交流を育み、国内外への留学や解剖実習への積極的な参加などの経験を通じて、常に目の前の症例に対して最善手で臨むことこそが、耳科学を志す若い先生の増加・育成につながると期待しております。

公募テーマセッション 5 その先の医療へ一次世代からの発信

10月15日(金) 16:10～17:10 第3会場

外リンパ瘻：CTP 検査の実情と展望

モデレーター：松田 帆（埼玉医科大学）

PT5-1. 外リンパ瘻診療における CTP 検査の活用法について

和佐野浩一郎（東京医療センター）

PT5-2. 内耳窓閉鎖を行なった外リンパ瘻 12 例の検討

木下 慎吾（上尾中央総合病院）

PT5-3. 当科における外リンパ瘻疑い症例に対する治療方針

森 華（東京女子医科大学東医療センター）

PT5-4. 慢性めまい症例に対する内耳窓閉鎖術の効果

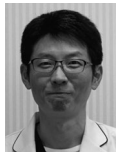
松田 帆（埼玉医科大学）



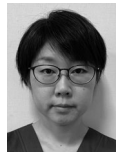
松田 帆



和佐野浩一郎



木下 慎吾



森 華

■企画意図■

外リンパ瘻は、突発性難聴の原因として注目され、現在まで外リンパ瘻に関する多くの報告がなされてきた。しかし診断方法が顕微鏡もしくは内視鏡による視認という方法に限られていたため、手術症例の報告に限定されていた。また海外でも本邦と同様視認により診断した報告が多いが、手術後に症状が改善したことを確定診断とした報告もある。過去の報告では、保存的加療を施行された症例のデータがほとんど無く、また術中に瘻孔・漏出が確認できなかった症例の扱いが報告によって異なっているため、外リンパ瘻のエビデンス蓄積は困難であった。

このような外リンパ瘻診断における問題点があった中、CTP 検査が登場し他覚的、低侵襲な診断が可能となった。特に非手術例の外リンパ瘻確定診断が可能になったことで、多数の症例のデータを集積することができた。CTP 検査の臨床統計から、我が国で特に注目されている急性感音難聴症例の中に外リンパ瘻が存在すること、海外では注目されながらも本邦では認知度が低かった慢性めまい症例の中に外リンパ瘻が存在することが分かってきた。一方で、瘻孔症状、pop 音、流水様耳鳴など外リンパ瘻に特徴的と言われている症状の有症率は高く無いため、症候学的診断が極めて困難であることも明らかになった。

現在 CTP 検査が施行できる施設は限られているが、今後保険収載された際には、全国のクリニック、病院で検査が可能になるため、どのような症状・所見を手掛かりに CTP 検査を施行するかの指針が必要である。また CTP 検査結果をどのように治療方針に反映するか検討が必要である。本セッションでは、CTP 検査を多数実施している施設からパネリストを選び、検査結果と症例の特徴を報告する。具体的には、1. 急性感音難聴患者における CTP 陽性率、2. 手術適応、3. 保存的加療と手術加療の治療効果の比較を報告する。また、4. 慢性めまい症例に対する内耳窓閉鎖術の効果についてもお示しする予定である。

本企画が、臨床の現場での CTP 検査の意義の確立、CTP 検査実施の手引きの作成、に寄与し、外リンパ瘻患者が適切な診断・治療を享受することが可能となるように議論を展開したい。

会長講演

10月15日(金) 15:40～16:10 第1会場

司会：小川 郁（慶應義塾大学）

演者：小島 博己（東京慈恵会医科大学）

アナログな手術・研究に魅せられて



小川 郁



小島 博己

日韓セッション 日韓追悼講演 10月15日(金) 10:50～11:20 第1会場

司会：喜多村 健（湘南医療大学）

Ken Kitamura (Shonan University of Medical Sciences)

JKO1-1. In Memory of Professor Naoaki Yanagihara

羽藤 直人（愛媛大学）

Naohito Hato (Ehime University)

JKO1-2. Professor Chong Sun KIM, his life and passion for otology

Ja-Won KOO (Seoul National University College of Medicine)

演者略歴

1991: MD, Seoul National University College of Medicine

1995: Resident, Dept of Otolaryngology, Seoul National University Hospital

1999: Fellow, Dept of Otolaryngology, Seoul National University Hospital

2001: Research Fellow, University of Pittsburgh Medical Center

2003: Assistant professor, Dept of Otolaryngology, Seoul National University Bundang Hospital

2004: Assistant professor, Dept of Otolaryngology, Seoul National University College of Medicine

2008: Associate Professor, Seoul National University Bundang Hospital, Seoul National University College of Medicine

2009: Adjunct Professor, Oregon Hearing Research Center

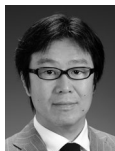
2013: Professor, Seoul National University Bundang Hospital, Seoul National University College of Medicine

2014: Chairman, Dept. of Otolaryngology, Seoul National University Bundang Hospital

2021: Chief, Dizziness Center, Seoul National University Bundang Hospital



Ken
Kitamura



Naohito
Hato



Ja-Won
KOO

日韓セッション 日韓テーマセッション

10月15日(金) 11:20～12:20 第1会場

司会：阪上 雅史（兵庫医科大学）

Masafumi Sakagami (Hyogo College of Medicine)

Won Ho Chung (Samsung Medical Center)



Masafumi
Sakagami



Won Ho
Chung

司会者略歴 Won Ho Chung

Education

1982-1988 M.D., College of Medicine, Seoul National University, Seoul, Korea
1990-1992 M.S., Postgraduate course, College of Medicine, Seoul National University, Korea
1995-2000 Ph.D., Postgraduate course, College of Medicine, Seoul National University, Korea

Faculty Appointments

1998.3-1999.2 Instructor, Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Sungkyunkwan University, School of Medicine, Samsung Medical Center
1999.3-2003.9 Assistant Professor
2003.10-2009.9 Associate Professor
2009.10-Present Professor, Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery Sungkyunkwan University School of Medicine, Samsung Medical Center, Seoul, Korea

Overseas Institute Appointments

1996.8-1998.2. Visiting Scientist (Research assistant) Department of Otolaryngology, UCLA medical center, CA, USA (Supervisor: V. Honrubia)
2003.9-2005.2. Visiting Scientist (Research) Department of Surgery, Division of Otolaryngology, UCSD, La Jolla CA (Supervisor: AF Ryan)

Innovative Medicine (新規医療)

JKO2-1. Development of the New concept Tympanoplasty with regeneration of the tympanic membrane

Theme: Middle Ear, Inner Ear, Temporal Bone, and Skull base surgery, Regenerative Medicine in the field of head and neck

金丸 眞一（北野病院／神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター）

Shin-ichi Kanemaru (Kitano Hospital / Foundation for Biomedical Research and Innovation at Kobe)

JKO2-2. Drug development for genetic hearing loss

Choi Jae Young (Yonsei University)

演者略歴

MAJOR RESEARCH INTERESTS

Ion transporter (SLC26A4, CFTR)

Genetics, Hereditary hearing loss

Auditory implant

EDUCATION

Degree-Granting Education

1992 Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea, MD

2001 The Graduate school, Yonsei University, Seoul, Korea, MS

2005 The Graduate school, Yonsei University, Seoul, Korea, PhD

2005–2007 Postdoctoral fellowship Cystic fibrosis research Lab, Stanford University, USA

Board Certification

Korean board of Otolaryngology, 2015, 3/2000

Intractable otitis media (難治性中耳炎)**JKO2-3. Intractable otitis media- Eosinophilic otitis media (EOM) and Otitis media with ANCA-associated vasculitis (OMAAV) - pathogenesis, clinical features and management**

吉田 尚弘 (自治医科大学附属さいたま医療センター)

Naohiro Yoshida (Jichi Medical University Saitama Medical Center)

JKO2-4. State of the art in intractable otitis media

Moo Kyun Park (Seoul National University College of Medicine)

演者略歴

2000: MD, Korea University College of Medicine

2010: Ph.D Korea University, Postgraduate school

2011: Assistant professor, Soonchunhyang university Bucheon hospital

2014: Associate professor, Seoul National university hospital

2017: Guest researcher, Electrical engineering, technical university of Denmark

2020–Present: Professor, Seoul National university hospital

Shin-ichi
KanemaruChoi Jae
YoungNaohiro
YoshidaMoo Kyun
Park

教育セミナー 1

10月14日(木) 8:40～9:40 第3会場

ES1-1. 側頭骨解剖の基礎知識

演者：平海 晴一（岩手医科大学）

ES1-2. 側頭骨解剖の基礎知識

演者：假谷 伸（岡山大学）



平海 晴一



假谷 伸

教育セミナー 2

10月14日(木) 8:40～9:40 第4会場

ES2. 一步踏み込んだ聴力検査

演者：内田 育恵（愛知医科大学）



内田 育恵

教育セミナー 3

10月15日(金) 8:00～9:00 第1会場

ES3. 中耳と蝸牛のやさしい生理学

演者：中川 尚志（九州大学）



中川 尚志

教育セミナー 4

10月15日（金）8:00～9:00 第2会場

ES4. 鼓膜・鼓室形成術（外耳道後壁保存型と外耳道後壁削除型）

演者：須納瀬 弘（東京女子医大東医療センター）



須納瀬 弘

教育セミナー 5

10月15日（金）8:00～9:00 第3会場

めまいの手術・顔面神経麻痺の手術

ES5-1. めまいの手術

演者：北原 糺（奈良県立医科大学）

ES5-2. 顔面神経麻痺の手術

演者：濱田 昌史（東海大学）



北原 糺



濱田 昌史

教育セミナー 6

10月16日（土）8:00～9:00 第1会場

ES6. 経外耳道的内視鏡下耳科手術（TEES）

演者：小林 泰輔（高知大学）



小林 泰輔

教育セミナー 7

10月16日(土) 8:00～9:00 第2会場

ES7. アブミ骨手術・耳小骨連鎖再建術

演者：田中 康広（獨協医科大学埼玉医療センター）



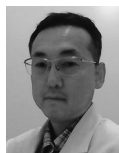
田中 康広

教育セミナー 8

10月16日(土) 8:00～9:00 第3会場

ES8. 平衡機能検査の実践

演者：久保 和彦（千鳥橋病院）



久保 和彦

共通講習

10月14日(木) 17:10～18:10 第1会場

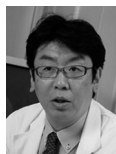
CL 新型コロナウイルス感染症における対応と展望

司会：山本 和央（東京慈恵会医科大学）

演者：中澤 靖（東京慈恵会医科大学感染対策部）



山本 和央



中澤 靖

演者略歴

平成2年3月 東京慈恵会医科大学医学部卒業
 平成4年6月 東京慈恵会医科大学第二内科（現腎高血圧内科）入局
 平成12年1月 慈恵医大薬理学出向
 平成13年7月 東京慈恵会医科大学感染制御部勤務
 診療，院内感染対策に従事
 平成20年4月 東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理部感染対策室室長
 平成22年12月 私立医科大学病院感染対策協議会事務局長
 平成25年10月 米国ワシントンにてteamSTEPPS講習受講
 平成30年10月 東京慈恵会医科大学附属病院感染対策部部長
 現在に至る

ランチョンセミナー 1

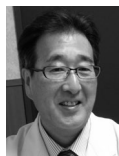
10月14日(木) 12:10～13:00 第1会場

(共催：メドエルジャパン株式会社)

LS1. 症例から考察する—BONEBRIDGE 手術法と骨導インプラントのこれから

司会：岩崎 聡 (国際医療福祉大学三田病院)

演者：土井 勝美 (近畿大学)



岩崎 聡



土井 勝美

ランチョンセミナー 2

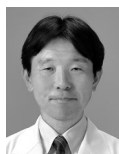
10月14日(木) 12:10～13:00 第2会場

(共催：株式会社モリタ製作所)

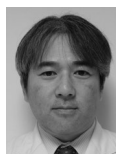
LS2. 耳科領域における超高精細 CT と 3D シミュレーションの活用～日常診療から耳科手術への応用まで～

司会：岩崎 真一 (名古屋市立大学)

演者：我那覇 章 (宮崎大学)



岩崎 真一



我那覇 章

ランチョンセミナー 3

10月14日(木) 12:10～13:00 第3会場

(共催：大鵬薬品工業株式会社)

LS3. 最新のめまい“宇宙酔い”からアレルギー性鼻炎まで～ヒスタミンの不思議～

司会：小林 一女 (昭和大学)

演者：野村 泰之 (日本大学)



小林 一女



野村 泰之

ランチオンセミナー 4

10月14日(木) 12:10～13:00 第6会場

(共催：永島医科器械株式会社)

LS4. 骨鋭匙ハンドルの開発経緯

司会：大森 孝一 (京都大学)

演者：松本 有 (東京大学)



大森 孝一



松本 有

ランチオンセミナー 5

10月15日(金) 12:30～13:20 第1会場

(共催：株式会社日本コクレア)

LS5. コクレア人工内耳の電極ポートフォリオ 電極選択の悩み解消セミナー

司会：羽藤 直人 (愛媛大学)

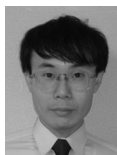
演者：樫尾 明憲 (東京大学)

吉田 忠雄 (名古屋大学)

山崎 博司 (神戸市立医療センター中央市民病院)



羽藤 直人



樫尾 明憲



吉田 忠雄



山崎 博司

ランチオンセミナー 6

10月15日(金) 12:30～13:20 第2会場

女性医師による鼓膜再生療法

(共催：ノーベルファーマ株式会社)

司会：金丸 眞一（北野病院）

LS6-1. 当科におけるリティンパ®を用いた鼓膜再生療法の経験

新川智佳子（山形大学）

LS6-2. 当科におけるリティンパ®を用いた鼓膜再生療法の経験

波多野 都（金沢大学）

LS6-3. 鼓膜再生療法の執刀医となって気づいたこと—手術手技のポイント—

金井 理絵（北野病院）



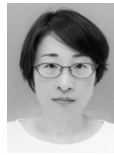
金丸 眞一



新川智佳子



波多野 都



金井 理絵

ランチオンセミナー 7

10月15日(金) 12:30～13:20 第3会場

(共催：日本メドトロニック株式会社)

LS7. 耳科手術における手術支援機器の特徴と有用性

司会：東野 哲也（宮崎大学）

演者：工 穰（信州大学）



東野 哲也



工 穰

ランチオンセミナー 8

10月15日(金) 12:30～13:20 第4会場

ヘッドアップサージャリーによる耳科手術～ORBEYEがもたらす新たな価値～

(共催：オリンパス株式会社)

司会：小川 郁 (慶應義塾大学)

LS8-1. 中耳真珠腫手術における4K3D外視鏡ORBEYEの導入

伊藤 吏 (山形大学)

LS8-2. ヘッドアップサージャリーによる耳科手術—ORBEYEがもたらす新たな価値—

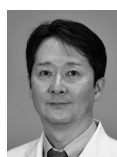
堤 剛 (東京医科歯科大学)



小川 郁



伊藤 吏



堤 剛

ランチオンセミナー 9

10月15日(金) 12:30～13:20 第5会場

(共催：田辺三菱製薬株式会社)

LS9. ヒスタミンと鼻アレルギーと中耳の破骨細胞

司会：吉川 衛 (東邦大学医療センター大橋病院)

演者：神崎 晶 (慶應義塾大学)



吉川 衛



神崎 晶

ランチオンセミナー 10

10月15日(金) 12:30～13:20 第6会場

(共催：カールストルツ・エンドスコーピー・ジャパン株式会社)

LS10. 新世代の教育 内視鏡下耳科手術

司会：池園 哲郎（埼玉医科大学）

演者：水足 邦雄（防衛医科大学校）



池園 哲郎



水足 邦雄

ランチオンセミナー 11

10月16日(土) 11:30～12:20 第1会場

(共催：マキチエ株式会社)

LS11. 補聴機器による早期介入と難聴児の実生活

司会：伊藤 真人（自治医科大学とちぎ子ども医療センター）

演者：白井 杏湖（東京医科大学）



伊藤 真人



白井 杏湖

ランチオンセミナー 12

10月16日(土) 11:30～12:20 第2会場

(共催：サノフィ株式会社)

LS12. Type2 炎症性疾患と生物学的製剤

司会：原渕 保明（旭川医科大学）

演者：山田武千代（秋田大学）



原渕 保明



山田武千代

ランチオンセミナー 13

10月16日(土) 11:30～12:20 第6会場

顕微鏡下の手術操作

(共催：カールツァイスメディテック株式会社)

司会：小川 洋 (福島県立医科大学会津医療センター)

LS13-1. 顕微鏡下の中耳手術で心掛けていること

萩森 伸一 (大阪医科薬科大学)

LS13-2. 顕微鏡下耳科手術—人工内耳手術を中心に—

山本 典生 (京都大学)



小川 洋



萩森 伸一



山本 典生

滲出性中耳炎診療ガイドライン委員会 報告

10月16日(土) 8:30～9:00 第4会場

司会：伊藤 真人 (自治医科大学とちぎ子ども医療センター)

小児滲出性中耳炎診療ガイドライン 改訂版刊行にむけて

演者：日高 浩史 (関西医科大学)

耳科手術指導医制度委員会 報告

10月16日(土) 8:00～9:00 第5会場

「2021年度 耳科手術指導医制度委員会活動報告」

司会：北原 糺 (奈良県立医科大学)

土井 勝美 (近畿大学)

1. 耳科手術指導医制度ワーキンググループ

2021年度 指導医・暫定指導医・認可施設申請

演者：土井 勝美 (近畿大学)

2. 耳の病氣相談医制度ワーキンググループ

耳の病氣相談医制度に関するアンケート調査

演者：北原 糺 (奈良県立医科大学)

3. 耳管ピン手術実施医制度ワーキンググループ

耳管ピン手術実施医制度 WG 報告

演者：大島 猛史（日本大学）

新規医療委員会 報告

10月16日（土）9:00～10:30 第5会場

「2021年度 新規医療委員会活動報告」

司会：土井 勝美（近畿大学）

岩崎 聡（国際医療福祉大学三田病院）

1. 概要

演者：土井 勝美（近畿大学）

2. 人工聴覚器ワーキンググループ

人工聴覚器 WG2021 年度報告

演者：岩崎 聡（国際医療福祉大学三田病院）

3. 人工聴覚器手術一症例登録システムワーキンググループ

人工聴覚器症例登録 WG 2021 年度活動報告

演者：土井 勝美（近畿大学）

4. 人工聴覚器成績評価検査ワーキンググループ

人工聴覚器成績評価検査 WG 2021 年度活動報告

演者：高橋 優宏（国際医療福祉大学三田病院）

5. 人工知能による耳科診療システムワーキンググループ

人工知能による耳科診療 WG 2021 年度活動報告

演者：吉田 久（近畿大学）

6. 総括

演者：岩崎 聡（国際医療福祉大学三田病院）

国内学術委員会 報告

10月16日(土) 8:30～9:15 第6会場

総合司会：中川 尚志 (九州大学)

1. 耳科手術と QOL ワーキンググループ

耳科手術と QOL に関する調査

司会：萩森 伸一 (大阪医科薬科大学)

演者：神崎 晶 (慶應義塾大学)

2. 側頭骨手術手技研修ワーキンググループ

側頭骨手術手技研修ワーキンググループ報告

司会：羽藤 直人 (愛媛大学)

演者：物部 寛子 (日本赤十字社医療センター)

山本 典生 (京都大学)

3. 側頭骨組織病理研究教育ワーキンググループ

側頭骨組織病理研究教育ワーキンググループ報告

ーヒト側頭骨組織研究トピックスー

「側頭骨病理で半規管膨大部の感覚上皮下に堆積層を認めた3症例とめまいの関係について」

司会：萩森 伸一 (大阪医科薬科大学)

演者：岡安 唯 (奈良県立医科大学)

用語委員会・国内学術委員会合同セッション

10月16日(土) 9:15～10:20 第6会場

耳科手術解剖のマクロとミクロの横断的な理解をめざしてー「鼓室形成術の名称 2020 年案」による検証ー

司会：山本 裕 (東京慈恵会医科大学)

演者：山本 裕 (東京慈恵会医科大学)

平海 晴一 (岩手医科大学)

伊藤 吏 (山形大学)

萩森 伸一 (大阪医科薬科大学)

我那覇 章 (宮崎大学)